

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府国際交流財団

{ 1 }

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
外国人情報コーナーの相談件数	件	2,800	2,079	△ 721

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	新型コロナウイルス感染症の対応が、第5類に移行したことに伴う相談者の不安感の減少			<ul style="list-style-type: none"> ・R4年度の相談件数は、新型コロナウイルス感染症に罹患した場合や濃厚接触者となった場合の対応等についての相談が、1,069件が含まれていた。 ・R5年度は、その3分の1程度の相談は継続されると見込んでいたが、PCR検査等行政の急激なサービス縮小と、相談者はじめ社会の不安感の緩和などの影響から、相談件数が激減したと考える。 						<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により生じた経済的課題への対応等を含め、大阪府が設置する他の相談窓口や地域の関係機関等と連携して、相談対応にあたりと共に、外国人情報コーナーの周知もお願いする。
	関連項目名	コロナ関連の相談件数	単位	件	R5当初想定値	350	R5実績値	75	差	
②	他団体の相談対応窓口の増加			<ul style="list-style-type: none"> ・出入国在留管理庁で、民間業者と提携して提供する19言語による通訳サービスが始まり、行政窓口の通訳依頼の選択肢が増加した。 ・府内の市町村窓口での外国人向け相談対応が充実してきた。 ・通訳翻訳の件数は、R4年度とほぼ同様の件数を想定していたが、大幅な減少となった。 						<ul style="list-style-type: none"> ・これまで注力してこなかったLINEやSNSツールなどを活用して、潜在的な相談者を掘り起こし、相談窓口の一層の周知を図る。 ・あわせて、こころの相談や夜間集中相談等も実施し、SNS等で開催を周知する。
	関連項目名	通訳翻訳の相談件数	単位	件	R5当初想定値	350	R5実績値	252	差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府国際交流財団

{ 2 }

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
ホームページアクセス数	件	86,000	74,980	△ 11,020

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応			
①	ホームページの更新頻度等の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアル作業に伴い、新着情報のページ以外の更新がほとんどされなかった。 ・新着情報の掲載件数は、R4年度73件の1.5倍の110件を見込み、ほぼ達成することができたが、更新までの時間を要する仕組みとなっており、速報性に課題があったと考えられる。 					<p>・レイアウトや写真等を工夫し、よりわかりやすく、必要な情報が探しやすいように、トップページをニーズやユーザー特性別に再編した。種々の情報提供や事業報告など、こまめに情報更新することにより、何度でも訪問してもらえるホームページとすべく工夫・努力を重ねる。特に、新着情報の更新を短期間で簡便に更新できる仕組みとしたことから、更新頻度を高めることで、リピーターの獲得に繋げていく。</p>			
	関連項目名	新着情報掲載件数	単位	件	R5当初想定値	110				

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府国際交流財団

[3]

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
留学生会館入居率（年平均）	%	85.0	79.9	△ 5.1

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	・短期入居者増による入退去時ブランク増			・近年、短期（1年未満）の入居者割合が高いため、入退去に伴い生じるブランク期間の改善に至らなかった。 ・R5年度の1年未満の入居者数は約12名(年平均)で、全85室うち約16%であった。						・医学部の留学生や大学院へ進学する留学生への対応として、入居期間ルールを最長4年から最長6年に延長及び寮近隣の入居実績校以外の大阪府内の大学等にも広く案内することで在籍校の多数化を促進し、空室の解消を図る。
	関連項目名	入居率	単位	%	R5当初想定値	85.0	R5実績値	79.9	差	